

中学校区の特徴

- ・小学校両校の児童の多くが開進第一中学校に入学する校区である。
- ・青少年育成第二地区委員会の行事への関わりが3校を結んでいる。

目指す児童生徒像

- ・知徳体のバランスのよい育成を図る。
- ・発達段階に応じて、社会性を身に付けた児童・生徒の育成を図る。

I 研究の概要

1 研究主題

「関わり合いを通して、生きる力を育む小中連携」

2 主題設定の理由

小学校から中学校へと続く義務教育の9年間は、児童・生徒にとって体力的にも精神的にも大きく変化する時期である。さらに学習や生活の環境の変化が加わり、不登校や学習等の諸問題（中1ギャップ）も起きている。そこで、児童・生徒が安心して学ぶ環境をつくること、これがこれらの諸問題の解決へとつながると考え、「関わり合いを通して、生きる力を育む小中連携」を主題に研究を進めることとした。

児童生徒が安心して学ぶ環境をつくるために、「児童・生徒の関わり合い」と「小・中学校の教員の関わり合い」の2つの関わり合いが必要であると考えた。安心して中学校へと進むことができるようお互いを知る機会を増やしたり、学習・生活習慣、指導法に関する情報を共有したりすることで9年間を通して児童生徒が安心して学ぶ環境をつくり、生きる力の育成へとつなげていく。

3 グループにおける小中一貫教育推進上の課題

- ・場所が離れているので移動や時間の確保が難しい。
- ・生活時程が違うので、交流の時間設定がずれる。
- ・3校の行事計画の中で共通の時間を設定することが難しい。

II 研究を推進する上での工夫

1 連携を進めるための研究組織



2 年間研究計画

実施日	内容	詳細	会場
4月11日 (月)	クリエイター会議	年度当初提出書類打ち合わせ	開進第一小学校
4月18日 (月)	区: 第1回連絡会	今年度の取り組み計画に関するグループ協議	区役所多目的会議室
4月21日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
5月12日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
6月3日 (金)	区: 第2回連絡会	小中一貫教育の情報発信、校区別協議会打ち合わせ	区役所多目的会議室
6月9日 (木)	クリエイター会議	校区別協議会打ち合わせ	開進第一小学校
6月9日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
6月16日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
6月21日 (火)	クリエイター会議	校区別協議会打ち合わせ	開進第一小学校
6月24日 (金)	校区別協議会①	授業参観・各分科会のグループ協議・全体会	早宮小学校
7月1日 (金)	中学校訪問	開進第一小学校6年生の中学校訪問	開進第一中学校
7月7日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
8月22日 (月)	区: 第1回クリエイター研修	効果的なアンケート作成と分析	ココネリ研修室1
8月31日 (水)	校区別協議会②	各分科会のグループ協議	早宮小学校
10月4日 (火)	中学校訪問	早宮小学校6年生の中学校訪問	開進第一中学校
10月6日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
10月11日 (火)	クリエイター会議	報告書作成の打ち合わせ	開進第一小学校
10月11日 (火)	部活動体験	開進第一小学校の6年生を対象とした部活動交流	開進第一中学校
10月28日 (金)	区: 第3回連絡会	フォーラム発表に向けた協議	区役所多目的会議室
11月7日 (月)	部活動体験	中学校の定期考査最終日を利用した出前型部活動交流	早宮小学校
11月21日 (月)	クリエイター会議	報告書作成最終の打ち合わせ	開進第一小学校
11月24日 (木)	校区別協議会③	授業参観・各分科会のグループ協議	開進第一小学校
11月25日 (金)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
12月2日 (金)	クリエイター会議	PP・原稿作成最終の打ち合わせ	開進第一小学校
12月15日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
1月20日 (金)	小中一貫教育フォーラム	平成27・28年度研究グループ合同発表会	練馬文化センター
2月3日 (金)	区: 第2回クリエイター研修	今年度の取り組み評価、来年度に向けた協議	区役所多目的会議室
2月9日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
3月9日 (木)	あいさつ運動	児童会と生徒会の連携あいさつ運動	開進第一小学校
開進一小研究授業		早宮小研究授業	
6月1日 (水)	4年算数の研究授業、研究全体会	6月22日 (水)	2年算数の研究授業、研究全体会
6月29日 (水)	5年算数の研究授業、研究全体会	7月6日 (水)	4年算数の研究授業、研究全体会
9月13日 (火)	2年算数の研究授業、研究全体会	9月7日 (水)	3年算数の研究授業、研究全体会
10月14日 (金)	3年算数の研究授業、研究全体会	10月13日 (木)	6年算数の研究授業、研究全体会
11月2日 (水)	6年算数の研究授業、研究全体会	11月1日 (火)	1年算数の研究授業、研究全体会
1月25日 (水)	1年算数の研究授業、研究全体会	1月18日 (木)	5年算数の研究授業、研究全体会
開進一中研究授業			
10月17日 (月)	2年国語の研究授業、研究全体会		
10月以降 順次	全教科の研究授業		

Ⅲ グループの特色ある取組

1 児童生徒の取組

(1) あいさつ運動

これまで中学校と小学校が独自に行っていた「あいさつ運動」を連携して毎月1回行った。具体的には、開進第一中学校の中央委員会（生徒会執行部と各専門委員会の委員長）が開進第一小学校の校門にて小学4年から6年の児童とともにいった。

小学生と中学生の声の高さの違いに、中学生は圧倒されていたが、回数を重ねるごとに慣れ、小学生、中学生ともに堂々とあいさつができた。

また、当日あいさつ運動を行う小学生の中に自分の弟や妹がいる生徒会役員がおり、兄弟でのあいさつ運動を行う姿が見られた。恥ずかしい気持ちが強かったようだが、最後は楽しく記念撮影をして終わることができた。

(2) 部活動体験

開進第一中学校の各部活動が、小学6年生を対象として部活動の体験をできる時間を設けた。本年度は、10月に開進第一小学校、11月に早宮小学校の6年生が中学校を訪れ、予め希望の部活を調整し一つの部活に決めて中学校の体育館や教室を使い体験した。

小学生は、先輩たちに教えてもらうことが嬉しいようで、充実した表情で活動に参加する様子が見られた。中学生も思いやりをもって接することができた。また、小学生から刺激を受けたようであった。実施日程や希望部活の調整が難しい等の課題があるが、有意義な体験であるので今後も継続していきたい。

(3) 中学校訪問

来年度入学予定の各小学校の6年生の児童が、中学校を訪問する取組を行った。当日は、中学校の先生と小学校の先生が引率を行い、各学級の授業を見学したり、中学校の生徒会執行部が作成した学校紹介のDVDを見たりした。授業見学では、授業をしている先生からの問いに、児童が答える場面などがあった。また、体育の授業を見学したときには、自分の知っている先輩が走る姿などを見て、中学校への入学に期待をしている様子が見られた。中学校の授業や生活の様子を直に感じる事ができていた。



あいさつ運動（開一小校門前）



あいさつ運動集合写真（開一小）



部活動体験（開一中校庭）



中学校訪問（開一中教室）

(4) ボランティアワーク

青少年育成第二地区委員会の主催する「遊ぼうデー」や「工作とあそび」に中学生がボランティアとして参加する取組を行っている。これは、中学生が休日に行われる地域の行事に参加し、運営に携わるものである。今年度は、開進第一小学校を会場として行われ、小学生が楽しむメニューのうち、プラバンの作成手伝いや卓球の相手を行った。児童は、中学生のお兄さんやお姉さんと一緒に活動することの楽しさを肌で感じており、中学生も小学生と関わり合う大切さを学んだ。



工作とあそびの様子→

(5) 職場体験学習

「自らの生き方や将来の職業について考え、卒業後の進路を考える学習」の中で、中学校2年生では進級当初に職業調べを行い、マナー教室や事前打合せを経て「職場体験」を行った。開進第一小学校や早宮小学校でも、あわせて9名の生徒が教室での先生の手伝いや主事さん方との清掃作業を体験した。照れながらもお兄さんお姉さんの顔をして小学生たちから頼られる姿が見られ、体験した生徒からは、「母校で体験ができてとてもうれしい。先生方大変さを実感したし、小学生との交流はとても楽しく、充実した時間を過ごせた。」との感想があり、将来の職業について学ぶ良い機会となった。



掃除の様子（早宮小）



2年生の学習補助



ぽんぽんづくり

(6) 地域学習

小学校3年生は総合的な学習の時間で地域の公共施設を訪問した。区民館・保育園・交番・中学校・福祉施設など、地域の人たちが安全で楽しく快適に暮らせるようにたくさんの施設があることを学んだ。また、開進第一中学校へも訪問した。兄弟の通っている学校を訪問するのにやや緊張した児童もいた。小学校には無い技術室や格技室を興味深く見学し、教室の広さや机の大きさの違いを体験することもできた。施設訪問発表会では、たくさんの人が中学校の報告を聞きに来た。自分たちが3年後通う中学校をより身近に感じることが出来る取組となった。



校門にてあいさつ（開一中）



格技室（開一中）



学習発表（早宮小）

2 教職員の連携等の取組

(1) 小中合同研修会における共同研究

ア 課題改善カリキュラムの検討（国語）

(ア) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

国語科における3校の児童・生徒の実態や課題について話し合った結果、下記の意見が挙げられた。

- ・3校とも朝の時間に読書活動に取り組んでいるが、読書に対する意欲に差が見られ、学校以外で読書する時間にも個人差がある。
- ・語彙力やそれを基にした表現力に不足がある。
- ・中学校ではどのような点を中心に授業を進めているのか知りたい。

開進第一中学校では、ここ10年間に、読書を「読むこと」の領域で扱い取り組んできた。その中で生徒が登場人物の「人物像」を一面的にしか捉えられないことや人物像を物語の展開に即して説明できないなどの課題が明らかになってきた。

<読書の授業を通して身に付けさせたい力>

- A：目的をもって本を選び、情報を取り出す力
- B：本を読み、説明したり感想を发表或したりする力
- C：本を読み、視点をもって批評する力
- D：複数の本を読み、内容を比較する力
- E：複数の本を読んで自分の考えをもち、意見を交わし合う力

9年間を見通したカリキュラムを考えると、その最後にあたる中学校3年生を一つの到達点とし、そこで出た諸課題の改善を基に小学校からのカリキュラムを見直し、系統性を考慮しながら課題改善カリキュラムの作成にあたった。

(イ) カリキュラム改善の視点

「自分の考えの形成」をカリキュラム改善の視点とする。具体的には、文章を読んで自分の考えをもち、児童同士、生徒同士の意見交流を通じて考えを広げたり深めたりする指導の工夫を、小中9年間を見通して系統的に行っていきたい。特に文学的文章においては、登場人物の人物像を軸にした「大まかな読み取り」の中で自分の考えをもたせる指導を計画的に行いたい。

(ウ) 今年度の取組

9年の義務教育期間で文学的文章を読む力をどのように育み、また、自分の意見・考えをもたせるにはどのような手だてが必要かについて協議を重ねた。その結果を踏まえ、各校で次のような取り組みを行った。

【小学校】

①音読

音読指導の徹底を図り、全員が文章の大まかな内容を理解できるようにした。理解が不十分と見なされるときには、必要に応じて音読を繰り返させた。

②一人読み

自分の読みを構築させるため、大切だと思う箇所や疑問点、キーワードにサイドラインを引かせた。挿絵を利用して内容理解に役立てたり、ワークシートを工夫して、吹き出しに登場人物の心情を書かせたりするなど、学年や発達段階に応じて工夫を図った。



小中連携研究授業（開一中）

③意見交流

意見交流を通して自分の読みを深めたり修正したりする学習活動を取り入れた。交流の在り方については、ペアや3人以上のグループなど様々な形で試みた。

【中学校】

全学年で年間指導計画に「一冊読み」の授業を組み込んだ。「一冊読み」とは、文庫本一冊を教材として、本を一冊読みこなす力を付けることを目指す授業である。小学校での学習を踏まえ、印象に残った箇所や重要だと思う部分に付箋を貼ったりサイドラインを引いたりさせ、登場人物の人物像や作品の主題をまとめる活動へと発展させた。3年生では、行間に込められた作者の意図や登場人物の役割を考えて作品を読み味わい、文学作品のもつ価値や魅力について自分の考えをまとめさせた。

単元や各時間のねらいに沿って、一斉授業・グループ学習・発表・読書会など様々な学習形態を取り入れ、言語活動の充実に努めた。

イ 課題改善カリキュラムの検討（算数・数学）

(7) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

学力調査の結果から分析すると、図形領域において、全国や都の平均正答率をやや下回っている。小学校においては、平面図形や立体図形の特徴や概念、算数用語がきちんと定着していないため、図形の特徴や複合図形の面積・体積の求め方を筋道を立てて説明することに苦手意識がある児童が多い。また、定規や分度器、コンパスなどの用具を上手に扱うことができず、正確に作図をすることができない。中学校においても、小学校同様、定規やコンパスなどの用具の使い方が十分理解できていない生徒が見られる。また、論証（記述、証明）を苦手とする生徒が多い。

これらの実態から、図形領域での課題改善カリキュラムの作成に向けて、協議を進めることにした。

(イ) カリキュラム改善の視点

- ・小学校低学年の段階から、身の回りのいろいろな物を観察したり触ったりする経験を豊かにし、図形に対する見方や量的感覚を育てていく。
- ・定規や分度器、コンパス等の用具の正しい使い方を指導し、正確に作図できるようにする。
- ・求積公式の意味を理解させるとともに、面積や体積の求め方などについて筋道を立てて説明する力を身に付けさせるための指導を行う。
- ・具体的な操作活動を取り入れ、それを言語化する活動を充実させる。
- ・使用する学習用具の準備や扱い方、指導方法等の共通化を図る。

(ウ) 今年度の取組

- ・課題改善カリキュラムに沿って、図形領域を丁寧に指導した。小学校・中学校共に基本的な作図方法を繰り返し指導し、具体的な操作活動を授業の中で意識的に取り入れた。
- ・各学校で行う研究授業を3校間で参観し合った。研究協議にも参加し、各学校の取組を参考にして、自校の取組に反映させた。
- ・3校で話し合いの場をもち、クリエイターを中心に意見を交流した。その中から、成果や課題を出し、次への取組につなげた。

ウ 校区別協議会について

- ・校区別協議会において、全体会を開き、研究構想図や研究計画等について確認し、3校教職員の共通理解を図った。
- ・校区別協議会において、前年度6年生担任と今年度の中学校1年生の担任が、生徒の生活状況についての情報交換を行った。
- ・校区別協議会において、国語、算数・数学、総合的な学習の時間・生活、児童・生徒交流の4つの分科会に分かれて、指導計画、指導上の課題、課題改善カリキュラム作成等についての協議を行った。
- ・課題改善カリキュラムの作成に向けて、各校の課題を明らかにし、児童生徒に必ず身に付ける力や必ず3校が共通して指導すべき事項等について協議する場を設定した。
- ・各分科会のチーフが集まって、課題改善カリキュラム作成や児童生徒の交流の計画等についての協議を行い、3校の共通理解を図る場を年に数回設定した。
- ・夏季休業期間中に3校教員が早宮小学校に集まり、分科会ごとに研究発表や研究報告書の作成に向けての協議や役割分担を行った。

(2) 授業における連携

- ・各校の外国語活動の様子を情報交換し、ALTや外国語活動アドバイザーのよりよい活用方法について協議した。
- ・国語科における「読むこと」の指導方法についての情報交換や協議を行い、課題改善カリキュラムを意識した検証授業をそれぞれの学校で実施した。
- ・算数科における図形領域の指導について情報交換や協議を行い、課題改善カリキュラムを意識した検証授業をそれぞれの学校で実施した。
- ・各校の生活科や総合的な学習の時間について、指導計画を交流し、授業の様子や地域の人材活用等について、情報交換した。

(3) 学校行事・授業公開の参観

- ・早宮小学校、開進第一小学校の校内研究授業(算数 図形領域)に他の2校の小中教員が参観し、研究協議を行った。
- ・校区別協議会においては、会場校の全学級の授業を公開し、参観後に協議を行った。
- ・中学校の研究授業(国語 読むこと)を2校の小学校の教員が参観し、研究協議を行った。

(4) 小中連携掲示板での取組

今年度、3校の「総合的な学習の時間」の活動を紹介し、情報を共有する場として、小中連携掲示板を作成した。教職員は、他校の様子を知るとともに、この情報を活用して学習の組立を行うことができた。また、掲示板を通して他校の様子が分かった児童は、他校をより身近に感じることができた。年間を通して様々な学習活動を紹介してきた。今後も他校の様子を見た児童が「こんな活動をやってみよう」と感じたり、中学校への期待を胸に抱いたりするように継続していきたい。児童生徒がなかなか直接関わることのできない小中連携の取組において、掲示板は、3校が関わる重要なツールになっていくと考える。



小中連携掲示板（開一小）

IV 今年度の成果と課題および次年度の方策

1 成果

(1) 国語分科会

- ・本文にサイドラインを引いたり、重要だと思ふ箇所に付箋を貼ったりする作業は、小中どの学年においても、自分の読みを構築するうえで有効であった。

(2) 算数・数学分科会

- ・図形領域の授業を課題改善カリキュラムに沿って、小学校・中学校共に進めていくことができた。基本的な作図の仕方や正しい用具の使い方を丁寧に指導したことにより、児童・生徒が抵抗なく用具を使うことができた。

(3) 児童・生徒交流分科会

- ・中学校訪問や部活動体験で児童が中学校生活への理解を深め、進学に対する安心感が高まった。
- ・定期的にあいさつ運動をすることで小学生と中学生の関わりが深まった。

(4) 総合的な学習の時間・生活科分科会

- ・小中連携掲示板を3校に設置して情報交換することで、各校の取組を共有することができた。
- ・中学校の職場体験学習や小学校の地域学習などを通して、お互いの学校をより身近に感じることができた。

(5) 全体

- ・C4t hの掲示板を開設したことで、開進第一中学校区の全教職員の小中連携に関する情報の共有が図られた。
- ・児童・生徒の様子や指導方法についての情報交換を通して、小・中学校の教員間の相互理解が深まった。

2 課題

(1) 国語分科会

- ・どの学年においても、読む力を育てるためには、一人読みや意見交流の場面で教師が適切な言葉がけや学習支援を行うことが必要である。

(2) 算数・数学分科会

- ・図形の領域は年間を通して学習期間が少ないので、その単元の学習中はよく理解していても、時間が経過すると作図の仕方などを忘れてしまう傾向がある。定着させるために、その単元の学習が終わっても、繰り返し復習する必要がある。

(3) 児童・生徒交流分科会

- ・体験する部活動が児童の要望と合わない場合があり、調整が困難になることがある。
- ・定期考査などがあり、小中の行事予定を考慮した日時の設定を行うことが難しい。

(4) 総合的な学習の時間・生活科分科会

- ・今後は、情報共有をするだけでなく、他校の取組でよい活動を自校に取り入れたり、中学校進学への意識を高めたりする取組を行う必要がある。

3 問題解決に向けての今後の方向性、取組の工夫、連携の在り方など

- ・今後も移動時間も考慮した上で、児童生徒の直接的な交流の場を設定していく。
- ・小学校間の連携や交流についても設定していく。
- ・課題改善カリキュラムに合わせた具体的な取組を通して、児童・生徒の変化を検証していく。
- ・年間行事予定の中に、3校教員が協議する場を設定する。
- ・校区別協議会の各分科会を細分化し、教科でのつながりについて話し合える場をつくっていく。